

二〇二六年二月一四日

立春の鳶高らかに声を上ぐ	わかば
春立つや水琴窟の楽もまた	えいじ
春立ちて水辺のベンチ賑はひぬ	むべ
春立つや飛行機雲の太うして	きりん
子らはみな跳ねて豆待つ節分会	康子
立春の光弾けて明石の門	わかば
節分の法螺鳴り渡る奈良の寺	こすもす
立春の潮の香纏ひ戻りけり	花茗荷
玄関の靴の中より年の豆	勉聖
うかとして切り分けしたる恵方巻	うつぎ

若鮎句会秀句・みのる選・二〇二六年二月一五日